

福井港港湾振興ビジョン

Vision for the Promotion of the Port of Fukui

2002.3



国土交通省北陸地方整備局



福 井 県



三 国 町

目次

1 .	福井港港湾振興ビジョン策定の目的	1
2 .	福井港の現状	2
3 .	福井港の目指すべき港湾の姿	5
4 .	福井港港湾振興ビジョン	7
	人々に開かれた「福井港」	7
	地域の産業と生活を支える「福井港」	8
	地域の安全・安心を支える「福井港」	9
	福井港港湾振興ビジョン体系図	10
	福井港港湾振興ビジョン全体のイメージ図	11

1. 福井港港湾振興ビジョン策定の目的

福井臨海工業地帯開発構想

昭和 40 年代に入り福井県は、県内の産業構造の改善と県民所得の向上を図るため、九頭竜川河口左岸に広がる三里浜に、福井臨海工業地帯（現在の通称「テクノポート福井」）を造成することにより、従来からの繊維産業を主力とする内陸工業に加えて付加価値の高い重化学工業等の基幹産業導入を計画し、関係省庁の支援の下に着手した。

福井港開発とその後の展開

同構想の実現のためには、関連インフラのうち港湾が不可欠であるとして、まず港湾整備を開始したが、二度にわたるオイルショックののち、わが国経済の構造が大きく変化したため、重厚長大産業の立地を想定して進めてきた港湾整備に対し、進出・立地した企業は必ずしも当初の構想にあった企業ばかりではなかったため、当初計画した貨物の取扱いがなされなかった。

しかし、福井港は「テクノポート福井」を支える産業基盤および嶺北地域等を背後圏とする流通拠点として重要な役割を担い、地域の産業に貢献してきた。

これまでに整備された施設等の利用状況についてみると、水深 10m 岸壁等の港湾施設で年間 200 万トン前後の貨物が取扱われ、福井臨海工業地帯（「テクノポート福井」）の用地もその 9 割が売却済みで、現在では、操業企業 66 社、従業員数約 3,200 人、県内工業出荷額の 8.2%（1,656 億円）を占めるまでになっている。

福井港の役割の変化

国は、広域的な視点から重要港湾の定義を「国際海上輸送網または国内海上輸送網の拠点となる港湾その他の、国の利害に重大な関係を有する港湾」とし、港格の見直しを行い、平成 12 年 4 月に福井港を重要港湾から地方港湾へ変更した。

一方、平成 12 年 5 月に福井港は、暮らしと経済を支える物流基盤としての役割ばかりでなく、豊かな自然、特色のある歴史、文化、産業などを活かしながら、ゆとりや潤いのある地域づくり、地域の文化や産業の育成に貢献する等の役割にも着目した地域の振興に重要な役割を果たすことが期待される港湾として「特定地域振興重要港湾」に選定された。

これまでの福井港は、当初の臨海工業地帯構想に基づいて計画された港で、その後の産業構造や物流構造の変化、地域住民からの要請等福井港を取り巻く状況の変化に、必ずしも十分に対応できていなかった側面がある。また、工業港である故に、一般市民には直接的には関わりが薄く、親近感が持たれにくい港湾であったことも事実として挙げられる。

これからの福井港が地域の振興・活性化に寄与するためには、経済社会情勢の変化に伴う新たな要請への対応のため、前述の「臨海工業地帯の先導役としての港湾」から「地域の活性化の中核となる、地域と海との接点（物流及び市民への解放等）としての港湾」へと役割を展開する必要がある。

福井港港湾振興ビジョン策定の目的

このような福井港の役割の変化から、地域に重要な役割を果たす港湾として

今後の福井港が、一般市民に開かれ、地域の産業と生活を支え、地域の安全・安心を支えて行くため、具体的にどのような取組みを行ってゆけばよいのか、

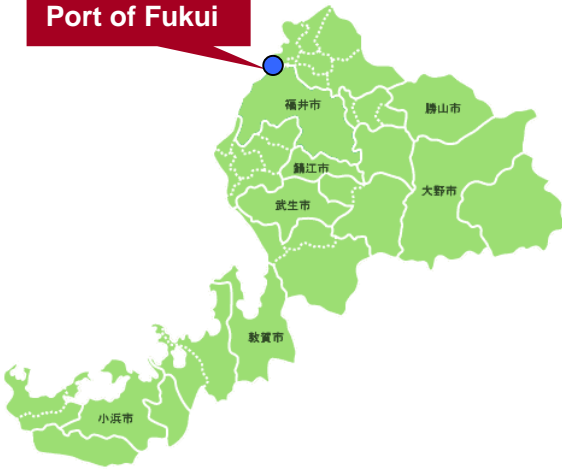
その方策について検討を行うとともに、

福井港が人々の生活にとってさらに重要な役割を果たす港湾となるための方策をとりまとめること

を目的とする。対象年次は、概ね 5～10 年を目途とする。

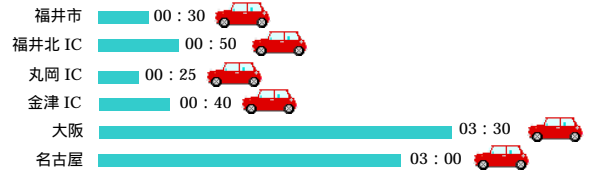
2. 福井港の現状

Port of Fukui



アクセス

福井港まで

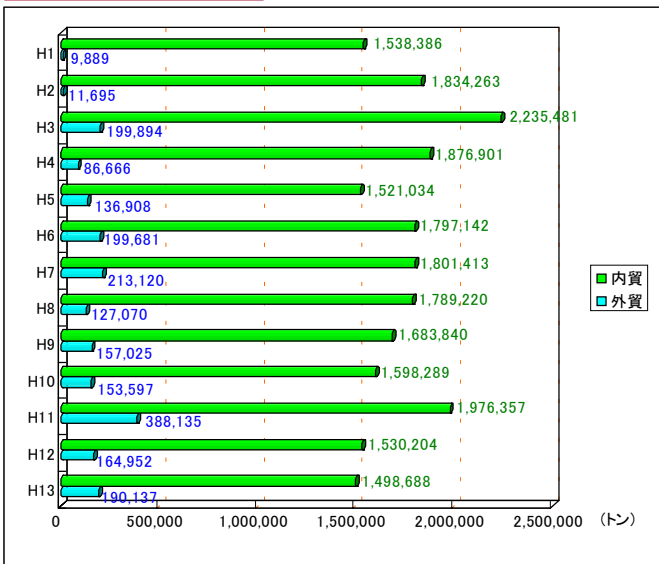


福井駅まで

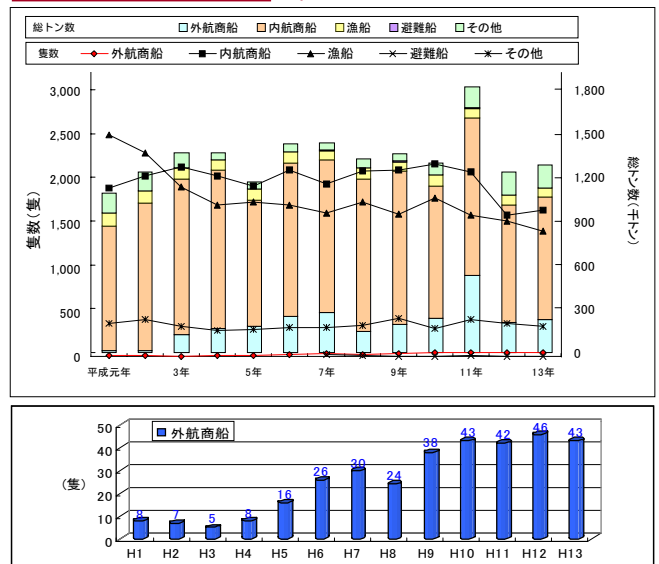


利用状況

取扱貨物量の推移



入港船舶の推移



品目別、相手先別取扱貨物量 (H13)

